

現代的な諸課題につながる近代化の歴史的事象への多面的・多角的考察の充実に関する実践

日時 令和4年8月22日(月)～8月30日(火)

対象 盛岡第三高等学校 第1学年 3クラス

指導者 総合教育センター 研修指導主事 高橋 正幸

盛岡第三高等学校 教諭 太田 柚子

1 単元名	
B	近代化と私たち (4) 近代化と現代的な諸課題

2 単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史をこれまで得た知識と結び付けて理解する。 ②主題に関係する情報を諸資料から読み取り、かつ収集しまとめる技能を身に付ける。	①事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国などの動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現できる。	①よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとする態度を養う。

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史をこれまで得た知識と結び付けて理解している。 ②主題に関係する情報を諸資料から読み取り、かつ収集しまとめる技能を身に付けている。	①事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国などの動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。	①よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとしている。

4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて
<ul style="list-style-type: none"> ・現代に見られる差別や偏見に起因する問題と近代化の歴史との関係に気づき、課題解決への見通しをもてるよう単元のまとまりを視覚的にとらえる場面を設定する。 ・日本、イギリス、アメリカといった当時の列強の近代化の歴史について、日本のもつ特徴や他の国々との共通点に気付くことができるよう、オンラインでのシンキングツールを使ってグループでの考えのまとめをする。 ・学習課題に対して、見通しをもって取り組めるように、授業のはじめに全員が到達するゴールをプロジェクトで投影し、共有を図る。 ・生徒が自らの考えに周囲の考えを取り入れながら内容を深めることができるようにするために、他のグループが制作した表を画面上で確認できるようにする。 ・現代において多文化共生を実現するための自分の行動を考えることを通して、近代化について理解を深められるように、近代化の過程で生じた現代における課題について、近代化が推進された19世紀と現代を比較する。

5 情報活用能力について							
本単元の実践で、生徒に必要なICTの基本操作							
<input type="checkbox"/>	PCの起動や終了	<input type="checkbox"/>	写真や動画の撮影	<input type="checkbox"/>	写真や動画の視聴	<input type="checkbox"/>	写真や動画の編集
<input type="checkbox"/>	文字の入力	<input type="checkbox"/>	ファイルの呼び出し・保存	<input type="checkbox"/>	アプリケーションの操作	<input type="checkbox"/>	ブラウザでのインターネット検索
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	問題解決のための活用	<input type="checkbox"/>	クラウドの協働作業	<input type="checkbox"/>	情報モラル・情報セキュリティ

6 単元の指導と評価の計画（全3時間）					
時	学習活動	指導上の留意点	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<p>学習課題 近代化の歴史のなかで、人々は異文化とどう向き合ってきたのだろうか。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> 近代化の歴史において、異文化接触の場面において日本や欧米で行われた政策や具体的な行動について、これまでの学習を振り返り、例を挙げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやプリント、教科書を活用し、簡潔に情報を多く出した上で分類するように指示する。 	知	○	<p>【知・技】〔記述〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史をこれまで得た知識と結び付けて理解している。
<p>小単元全体にかかわる問い 「多文化共生社会の実現のために、近代化の歴史を振り返り、私たちのできることは何だろうか。」</p>					
2	<p>学習課題 19世紀の世界の特徴とはどんなものだったのか。 また、その時代に多文化共生は実現できなかったのだろうか。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> イギリス・アメリカ・日本でみられた共通点や違いを表に整理し、その表を基に学習課題についてのグループの考えをまとめる。 各グループの成果物を確認し、自分のグループの考えを見直し、まとめ直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の際に、簡潔に伝え、より多くの情報を集められるよう指示する。 	思	○	<p>【思考・判断・表現】〔記述〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○異文化との接触の際、日本が行った行動の背景や原因、結果や影響などに着目して、イギリスやアメリカの動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し、表現している。
3 本 時	<p>学習課題 現代において多文化共生社会を実現するために必要な条件とは何か。</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> 現代の状況を考え合わせ、多文化共生社会の実現に取り組める内容を記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代と19世紀の世界を比較したうえで、知識として得た現代社会の特徴を踏まえて実現できる条件を考えることを説明として付け加える。 レポートを画像として保存し、Microsoft Teams にアップロードするよう指示する。 	態	○	<p>【主体的】〔記述〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多文化共生社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとしている。
<p>小単元全体に関わる問いへのまとめ（例） 文化や考え方、価値観の違いを優劣で考えずに相手との共通点を見付ける努力をする。</p>					

7 本時の指導

(1) 本時の目標

第1時にまとめたいち早く近代化を遂げた日本・イギリス・アメリカの傾向と第2時でまとめた近代化が進んだ19世紀の特徴を踏まえて、現代で多文化共生社会を実現することを可能にする条件を考察し、自分自身、地域、国で多文化共生を実現するためにできることを表現することができる。

(2) 学校におけるICTを活用した学習場面

A 一斉学習	B 個別学習	C 協働学習
<p>挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。</p> <p>A1 教師による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用</p> <p>B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習</p>	<p>デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。</p> <p>B1 個に応じた学習  一人一人の習熟の程度に応じた学習</p> <p>B2 調査活動  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録</p>	<p>タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。</p> <p>C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発表、話し合い</p> <p>C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して整理</p> <p>C3 協働制作  グループでの分担・協働による作品の制作</p> <p>C4 学校の壁を越えた学習  遠隔地や海外の学校等との交流授業</p>

「教育の情報化に関する手引—追補版—」2020年6月 文部科学省

(3) コンピュータでできること

	個別のドリル学習
	試行錯誤する
<input type="radio"/>	写真撮影する
<input type="radio"/>	念入りに見る
	録音・録画と再視聴
<input type="radio"/>	調べる
<input type="radio"/>	分析する
	考える
	見せる
<input type="radio"/>	共有・協働する
	その他 ()

(4) 活用するICT機器等

<input type="radio"/>	PC (ノート・タブレット)	<input type="radio"/>	電子黒板		大型テレビ
	書画カメラ	<input type="radio"/>	ウェブブラウザ		デジタル教科書
<input type="radio"/>	プロジェクター (スクリーン)	<input type="radio"/>	授業支援ソフト	<input type="radio"/>	動画コンテンツ
<input type="radio"/>	プレゼンテーションソフト		ドリル教材	<input type="radio"/>	ウェブ会議システム
	その他				

(5) 学習場面でのICTの活用の仕方、目指す生徒の姿

本時では、「多文化共生社会を実現することを現代で可能にする条件を考察し、自分自身、地域、国で多文化共生を実現するためにできることを表現する」を目指す。そのために次のようにICTを活用する。

【A 一斉学習】 [A1 教師による教材の提示]

生徒が学習課題解決の見通しをもてるように単元での学習の進め方を提示する。導入部分で課題解決に必要な知識を確認し、次の学習への関心を高めるためにMicrosoft Formsを活用し、前時の振り返りを行い、その結果を提示する。

【B 個別学習】 [B2 調査活動]

これまでの既習内容をまとめたPDFファイルをオンラインで確認し、学習を進める。動画コンテンツを視聴したり、他のグループの記述状況をオンラインで確認したりして、単元のまとめを行う。

【C 協働学習】 [C1 発表や話し合い]

生徒が自らの考えを発表し、周囲の考えを把握しやすくすることで、クラス全体で考えを深められるよう、Microsoft Teamsの投稿を促す。

【C 協働学習】 [C2 協働での意見整理]

19世紀の特徴について、前時にまとめた表の情報を整理し、グループでの意見をGoogle Jamboardを使ってまとめる。

(6) 本時の指導案 (3/3)		
	学習活動	指導上の留意点 (◇評価 【 】評価の観点 ■活用するICT機器等)
導入 10分	<p>1 前時の復習をする。 (1) 19世紀の特徴の確認</p> <p>2 19世紀の世界と現代を考える。 ・「多文化共生や異文化理解が難しかった19世紀と現代との違いは何だろうか。」について考える。 ・Microsoft Teams 投稿欄を使用して自らの考えを発信する。</p> <p>3 現代世界の特徴を理解する。 (1) 特徴としてのグローバル化、国際協力、国際競争と国際分業 (2) 現代での異文化への姿勢の変化 異文化理解から多文化共生へ</p>	<p>・第2時でまとめた表の情報を Google Jamboard にまとめるよう指示する(またはそれぞれがまとめたものの共有を指示)。 ■タブレットPC・スマートフォン 協働での意見整理 [C2]</p> <p>・Google Jamboard にまとめた内容については、他のグループの記述も読み、考えを深めるように指示する。 ■タブレットPC・スマートフォン 発表や話し合い [C1]</p> <p>■ノートPC ■プロジェクター (スクリーン) ■プレゼンテーションソフト 教師による教材の提示 [A1]</p> <p>・グローバル化が進んだ1990年代と多文化共生の必要性が言われた時期が同一であることを示す。</p>
学習課題 現代において多文化共生社会を実現するために必要な条件とは何か。		
展開 33分	<p>4 本時のゴールと単元全体に関わる問いを確認する</p> <p>5 個人で学習内容の整理と考察をする。 ・前時にまとめた19世紀の状況を活用し、現代世界と対比させて考える。 ・これまでにまとめた異文化接触の様子や19世紀の世界の特徴を活用し、現代世界の特徴から多文化共生を実現できる方法を考える。</p> <p>6 意見の発信と共有をする。 ・Microsoft Teams 投稿欄を活用し、自分の考えを発表する。</p>	<p>・相互評価でなく、自己評価を行うことを伝える。 ■タブレットPC・スマートフォン 調査活動 [B2]</p> <p>・学習内容の整理、考察 ・Microsoft Teams上のファイル欄にあるPDFファイル(NHK for School動画、YouTube人権啓発ビデオのURL記載)を活用するよう指示する。 ■タブレットPC・スマートフォン 発表や話し合い [C1]</p> <p>・全員の活動をサポートすることが目的であることを伝える(本時のゴールへの全員の到達)。</p>
終末 7分	<p>7 学習のまとめをする。 ・現代の特徴と自らの状況を考え合わせ、多文化共生社会の実現に取り組める内容を記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>振り返り(例) 文化や考え方、価値観の違いを優劣で考えずに相手との共通点を見つける努力をする。</p> </div>	<p>(ワークシート)(記述) ◇多文化共生社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「近代化と私たち」の学習を振り返るとともに、「国際秩序の変化や大衆化と私たち」の学習へのつながりを見いだそうとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ワークシートの記述欄を画像として保存し、Microsoft Teams にアップロードするよう指示する。</p>